

仮面の忍者 赤影
私が小学校2年生の頃、
白黒テレビにフィルムを
かけて赤色が出ない
赤影を見ていまし
た。「赤影参上」

石川 秀樹

私の好きな番組は NHK
毎週日曜日 19:30～放送の
「ターウィンが来た」です。
3歳の孫と一緒に
見るのが最高
です。

田原 智延

「氷戸黄門」
一話50分で日本
人の心をつかむ
内容が好きです。
今でも再放送
を見たいです。

濱崎 俊明

8時だよ 全員集合です。
土曜日だけは9時まで
起きていてもOKでした。
我が子もドリフが
大好きなので今でも
録画で楽しんでいます。

中島 大吾

現在進行形で「ちびまる子ちゃん」
です。好きな番組は「にげんみ」
です。ずっと好きでずっと見ているの
です。日曜日はこたけ
にちびまるも6時30分に
我が家の暗黙の...どうも

佐々木 康恵

「フレイハウス」人生で最初に見た
海外ドラマです。子供ながらに、ジェ
シーおじさんがすごくカッコ良いと
思い、あこがれていました。
ゴールデンゲートブリッジを見ると
脳内にオープニングが流れます。

原 光

「世界ウルルン滞在記」です。
子どもながらに世界には
こういった文化があるのだと
感じ、世界旅行に
興味を持ったきっかけ
の番組です。

室田 直樹

「ドラえもん」です。
小学生の頃、夜更かし
が許されていた金曜日
に子どもだけで
集まって見るのが
楽しみでした。

橋本 一輝

今、NHKの「アサリ・シリーズ」を
毎週観ています。歴史的な出来事
(ビートルズ来日、ガンジスなど)の裏に隠さ
れた、意外な物語と
知ることが「子どものか」
面白いです。

恒松 明宏

ーザ・バスターナー
友達との話題に歌番組は
かかせません。した。
は放送のハナツギや
スタジオセットに集めて
した。なつかしい。

大賀 利江

「熱闘甲子園」です。
「ハンカチ王子」世代で、
学生時代、甲子園観戦が
大好きでした。夜更かし
しながらハイライトや注
校を観ていました。

増子 枝里子

「水曜日のダウンタウン」が好きで
た。様々な説を検証する番組で
すが、独創的な企画
で、斬新さからでも
魅力的な番組で
た。

渡邊 光風

かけはし

Vol.56
春号
2023年4月

弊社駐車場のしだれ桜です*
今年もきれいに咲きました♪
寒暖差が激しいので、
お互い体調管理に
気を付けましょう(^^)

4～6月の税務・お知らせ

- ・申告所得税の口座振替日・・・4/24(月)
- ・消費税の口座振替日・・・4/27(木)

※預貯金残高のご確認を！

※源泉所得税の特例納付、社会保険の算定基礎届のご準備を！

お休みカレンダー

2023年 4月							2023年 5月							2023年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						①		1	2	③	④	⑤	6					1	2	③
2	3	4	5	6	7	⑧	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	⑩
9	10	11	12	13	14	⑮	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	⑰
16	17	18	19	20	21	⑳	21	22	23	24	25	26	㉑	18	19	20	21	22	23	㉒
23/30	24	25	26	27	28	㉙	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	

わたしたちは、たくさんの「ありがとう」を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。

いよいよ春がやって来ました。3月13日からマスク着用が個人の判断に委ねられたことで、名実共にアフターコロナになった感があります。

ただ、エネルギー・食料価格の高騰、人手不足、材料不足、少子高齢化、異常気象リスク、紛争リスク等々、経営に関わる悩みが尽きないのは何ら変わりません。むしろ、経営環境はより一層複雑化しているように思います。

またテクノロジー面でいえば、昨年末に、チャットGPTというAI（人工知能）を使ったチャットボットが登場しました。巷では、AIの進化の転換点になると予想されています。近い将来、チャットGPTやそれに代わるAIによって職を奪われる業種もあるでしょう。今後はより一層、「人にしかできないこと」でいかに付加価値を生み出せるか？」が求められるのだと思います。

中小企業にとっては舵取りが難しい状況ですが、前号（冬号）にも書いた「元気があれば何でもできる！」の精神で、停滞することなく行動を起こして参りましょう！

なお、金融庁より「コロナ資金繰り継続プログラム」が公表されています。日本公庫のスーパー低利融資（＝コロナ融資）が今年9月末まで延期されていますので、事業者の方はご活用下さい。ご不明な点は、弊社担当者にお問い合わせいただければと思います。

それでは春号も、どうぞよろしくお願いいたします！



代表取締役
安野 広明



『長所と短所の使い方が人生を分ける』

その昔、『パーフェクト・ヒューマン』という曲が流行りましたが、現実の世界にパーフェクトな人なんていません。誰にでも、持って生まれた長所と短所があります。そして個々人の長所と短所は、その使い方次第でまったく異なる人生になる気がします。

本来、長所とは他人の短所を埋めるためのもの。したがって、持って生まれなかった人を助ける（支える）ために使うことが大事です。また短所とは、他人に埋めてもらうもの。自分にはないものを持っている人と協力し、支えてもらい、仲良くなるためにあると思っています。

おそらく、そういったスタンスで自らの長所・短所を使っている人は、周りとの関係が良好で、機嫌よく毎日を送れているのではないのでしょうか。

一方、真逆の人生になる場合もあります。

それは例えば、長所を他人のために使うどころか、鼻にかけ、できない人を馬鹿にしたり優越感に浸るために使い、短所は認めず、弱みを見せず、むしろ劣等感をひた隠しにするために自分を強く見せる・・・といったパターン。そういう人は、謙虚な姿勢で自分にはないものを持っている人に協力を求めるなんてことは、プライドが許さないとします。また、短所を気にするあまり卑屈になる人もいらっしゃいます。「どうせ自分なんか」と、自身の殻にこもってしまうのです。それはそれで、他人からの協力は得にくいでしょう。

いずれにしても、周りとの関係が良くなるどころか、人から避けられたり、孤立してしまうことは想像に難くありません。その根本は、「自分の長所と短所をどう使うか？」だけの違いなんですけどね。

そして経営者やリーダーの立場としては、組織のポテンシャルを最大限に発揮するため、まずはメンバーの長所と短所とを見定める必要があります。その上で、「いかにしてAさんの長所でBさんの短所を埋め、Bさんの長所でCさんの短所を埋めるのか？」とか「どうすればCさんの長所をもっと伸ばせるのか？」などと試行錯誤しなければなりません。また同時に、長所と短所の使い方を間違えて社内で孤立する人が出ないように、メンバーの人間性教育も求められるでしょう。

個人としても経営者としても短所だらけの私は、これからも、自分に足りない部分をメンバーに補ってもらいつつ、数少ない自分の長所で人の役に立てるよう、より一層、自身を磨いていこうと思います。

『遠回りして見た景色は人生の財産となる』

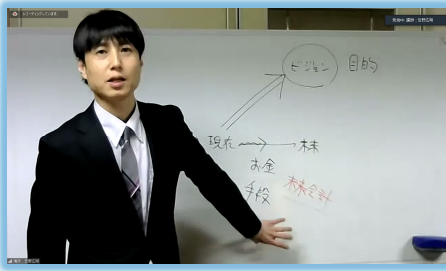
突然ですが、現在地から遠方の目的地に向かう際、飛行機、新幹線、在来線、フェリー、バス、車、自転車、徒歩から移動手段を選べるとします。コストを気にしなければ、おそらくほとんどの人は、時間がかからずに移動できる飛行機か新幹線を選ぶでしょう。ただし、そうすると、移動中に見える景色や得られる経験は、さほど他の人と変わりません。

ではもし仮に、自転車や徒歩を選んだとすればどうか？
（数日単位の）相当な時間がかかる上に、体力的にも消耗し、到着する頃にはヘトヘトになるはずですが。しかしそのプロセスにおいては、普段会うことのない人との出会いがあったり、絶景スポットを発見できたり、精神力が身に付いたりなど、最短ルートで到着した人には絶対に味わえない経験が得られるでしょう。遠回りかもしれませんが、そこには、他の人にはないその人ならではの経験が待っているのです。

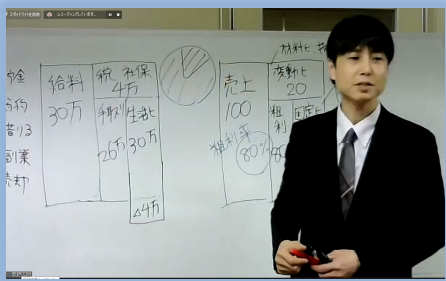
そしてそれらの経験（＝財産）は、そのまま本人の魅力へとつながります。例えば学校の先生でも、いったん一般企業に就職していたり、個人で事業をしていた経験があるような方は、最短ルートで先生になった方とは、ひと味違う魅力があったりしますよね。それは、遠回りして見た景色が人生の財産になっているということだと考えています。まあ正直、何の苦労もなく最短ルートで成果を挙げている人を見れば、羨ましくもなりますが、そういう時には長い時間軸で捉え、「将来、この遠回りの経験が財産になるんだな～」くらいに解釈するとよいかもしれません。

私自身、これからも遠回りな人生の景色を楽しみたいと思います。

セミナー紹介



弊社代表の安野が、3月23日（木）に島根県歯科医師会様主催の「WEB医業経営塾」にてセミナー講師をつとめました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございます！



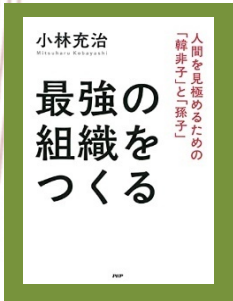
本の紹介

『最強の組織をつくる』

～人間を見極めるための「韓非子」と「孫子」～



中島 大吾



最強の組織とはどんな組織なのか？そんな事を考えながらこの本を手に取りました。
人を動機付けるのは思いやりや義理人情ではなく、利益のみであるという人間不信の書「韓非子」と、中国最古の兵法書である「孫子」を用いて、組織を運営するためのヒントが書かれています。
例えば、「部下が背かないことに期待する」のではなく、「部下が背こうにも背けない組織をいかに作り上げるか」とありました。
論語のような性善説の話（建前）ではなく、少し現実的な本音の話になっています。
信頼できる人とはどのような人なのか、信頼されるにはどうしたら良いのかを考えさせられる内容でした。

『素晴らしい人生を約束するのは「才能」ではなく「習慣」』



特定の分野における才能のある・なしは、その人の人生に大きな影響を及ぼします。自分の才能を発揮できる仕事に就けば、成果にもつながりやすいでしょう。ただし素晴らしい才能が素晴らしい人生を約束するかといえば、必ずしもそうとは限りません。類稀なる才能を持ちながらも不幸な人生をたどっていく著名人は、これまでに新聞やニュースで数多く見て来ました。

ではなぜ、そうになってしまうのでしょうか？

それは、才能を扱う人の心の問題だと推察します。言うなれば「性格」や「人間性」です。

そのように書くと、それこそ先天的なものではないか？と思われるかもしれませんがね。この点私は、性格というのは日々の習慣により後天的につくることができると信じています。

皆さんの周りにも、「あの、昔はかなりやんちゃだったのに、いつの間にか立派になったな～」と思う人がいらっしゃるはず。本気になれば、何歳からでも人は変われるのです。

とはいえ、ある日突然変わるなんてことはあり得ないので、そのベースとなるのはあくまで日々の習慣。良習慣を続けていれば性格は良くなっていくでしょうし、悪習慣を続けていれば性格は悪くなっていくでしょう。

そうやって性格や人間性が磨かれれば、才能を正しく使うことができます。また仮に、現在の仕事の才能には恵まれなかったとしても、自身の性格で周りの人に喜んでもらうことができれば、その場において必要とされる存在になっていくでしょう。したがって、素晴らしい人生を約束するのは才能ではなく日々の習慣と言えそうです。

習慣を工夫改善することで、より良い人生を歩んでいきたいものです。

『「変わった気になる」の罠にご注意を』



本を読んだりセミナーに参加したりして知識の量が増えると、世の中が分かったような、自分が変わったような気になるものです。

しかし現実には、行動が変わらなければ何も変わりません。あらゆる起業セミナーで学び続け、気付けば起業しないまま5年が経っていた・・・なんていう笑えない話を聞いたこともあります。行動に起こさなければ起業できないのは当然でしょう。

セミナーに参加する→ 変わった気・やった気になる→ テンションが上がり一時的な快感が得られる→ 一晩寝ると元に戻る→ また快感を求めてセミナーに参加する→ そしてまた変わった気になる・・・を繰り返しては、同じところをグルグル回っているだけ。ある意味、セミナー会社の思う壺です。かくいう私自身、その無限ループにはまっていた時期がありましたので、よく分かります。

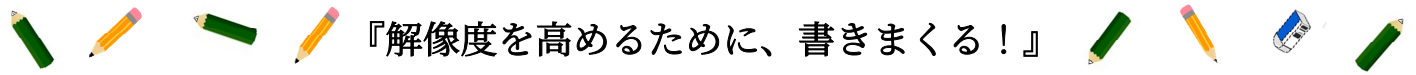
そしてこの「変わった気になる」という罠は、経営の中にも潜んでいます。例えば、「組織の配置換えを行ったら生産性が上がるのではないか？」とか、「新たな福利厚生制度を導入すれば社内の雰囲気はよくなるのではないか？」みたいなことです。

もちろん、それらが不要だと言いたい訳ではありません。ただ、配置換えや制度の導入さえすれば、会社自体が変わった気になるというのは、けっこう陥りやすい罠なのかなと。

過去には弊社でも、新制度を導入し、「よし、これで会社が成長できるぞ！」と期待したものの、後日、何も変わっていない現実をつきつけられ、撃沈してテンションが下がり、また新たな制度を探しにいく・・・といった無限ループにはまったことがあります。こう見えて私、結構はまりやすいタイプなのです（汗）。

しかし今では過去の経験から学び、「変わった気になる」だけでは終わらせないようにしているつもりです。現実をつきつけられようが何だろうが、「前進あるのみ！」の精神で、日々の小さな積み重ねを愚直に進めていくしかないと考えています。

お互い、「変わった気になる」の罠には注意しましょう。



『解像度を高めるために、書きまくる！』

例えば、心が洗われるような素晴らしい景色を見て感動し、カメラに収めたとしても、ことごとくピントがズレていたらその写真は使い物になりません。せっかくのチャンスが台無しです。

それと同じく、どれだけ貴重な体験をして心が動いても、思考の解像度が低ければ、「とても良かった」「勉強（参考）になった」「すごいと思った」等のぼんやりとした理解に留まり、そこから何かを掴み取って次につなげることはできません。これまた、せっかくのチャンスが台無しです。

そのように考えると、もしも現在、自己成長という意味で伸び悩んでいるとすれば、それは解像度の低さが要因かもしれません。また仮に、人と話していて、なぜかコミュニケーションが上手く図れなかったり、「何が言いたいのかよく分からない」みたいな指摘を受けるとすれば、それもまた解像度の低さが要因だと思います。思考の解像度は、自己成長においてもコミュニケーションにおいても、ネックとなる要素なのです。

そしてこれがビジネスともなると、なおさら重要でして、解像度が低いまま商売をするのは、あたかも霧の中に矢を射るようなもの。的がよく見えないのがむしゃらに矢を放った（＝行動した）ところで、成果にはつながりません。

したがって商売においては、矢を放つ前にしっかりと霧を晴らす、つまり「経営理念」「ビジョン」「未来像」「戦略」などはもちろんのこと、それらに紐づく「理想の顧客像」「想定するニーズ」「求める人財」「商品サービスの差別化要因」などの解像度を高める必要があると考えています。

では、どのようにして解像度を上げていくのか？もしかすると頭の中で自由自在に解像度を調整できる人もいるのかもしれませんが、私のような凡人の場合、面倒臭くても、時間がかかったとしても、書いて書いて書きまくるしかないと思っています。

頭の中に生まれたモヤモヤを書き出すことで、（自分は）何が気になったのか、何を言いたいのかが整理され、クリアになるのです。それはまるで、「粗い画像が徐々に鮮明になっていき、映し出されているモノの正体を当てるクイズ」のように、書けば書くほど解像度は上がります。

ただし、筋トレをサボると筋力が衰えるのと同じく、解像度についても、サボれば見える景色はぼやけてしまうでしょう。したがって、もしも世の中をできるだけクリアに見たいのであれば、解像度を上げるために書きまくる努力は継続しなければならないと思っています。ご参考までに。

『鏡を拭いても顔は変わらない』



よく「自分の周りで起きる出来事は自分の心を反映している」とか「他人は自分を映し出す鏡だ」とか言われます。確かに、自分という存在は他者との関係性の中で形成されることからすれば、そこは切っても切れないのでしょう。天変地異のような特殊事情を除き、ほとんどの事象は自分の心の現れなのです。

そのように考えると、顔が汚れたからといって鏡の中の顔をゴシゴシ拭いても汚れが落ちないのと同じく、自分の周りの他人を変えようとするにはあまり意味がありません。やるべきは、自分の顔を洗うこと。つまり、自分を変えるしかないと思っています。自分が変わることで、自分を映し出す世界（＝他人や周囲の環境）も変わっていくはずです。

ただし「大きく変わる」と書いて「大変」と読むことから分かるように、変わるというのは大変で、そこには痛みや苦しみを伴います。「変わらない」を選んで何もしない方が楽でしょう。よりよい人生を思い描いて変わろうとするかどうかは、その人次第です。

ところで人間の行動の原動力は何か？といえば、「どうしても手に入れた未来を思い描くこと」と、もう1つは「最悪の未来を避けること」だと言われています。したがって、もしも前者だけでは体が動かない（＝行動できない）のであれば、後者を具体的にイメージしてみると行動が促されるかもしれません。

なにはともあれ、変えられるのは鏡ではなく自分ですので、その点は肝に銘じておきたいものです。